

第4回 糸魚川市廃棄物減量等推進審議会 会議抄録

1 日 時 平成23年2月22日(火) 13時30分開会
15時10分開会

2 場 所 糸魚川市役所 201・202 会議室

3 出席者 ・ 委員 19名

新井委員、池亀委員、池田委員、入沢委員、内山委員、大月委員、
小笠原委員、北村委員、佐藤委員、中山委員、藤野委員、穂苅委員
本庄委員、松澤委員、柳委員、山岸(一)委員、山岸(洋)委員、山本委員
渡辺委員

(欠席) 福崎委員

・ 本間副市長、小椋市民部長

・ 事務局【環境生活課】 金平課長、木下参事、渡辺副参事、高野主査
七澤主査

(清掃センター) 渡辺センター長、野本係長、中村主査

【能生事務所】 中村主査

【青海事務所】 柵主任主査、二宮主任主事

・ 傍聴者 1名

4 次 第

(1) 開 会 金平課長

(2) 市 長 挨拶 本間副市長

(3) 会 長 挨拶 山岸会長

(4) 議 事 進行 山岸会長

<主な質疑・意見>

(1) パブリックコメント制度での意見とそれに対する市の考え方 (案)

資料 No. 1

(2) 市議会 市民厚生常任委員会での意見及び対応 (案)

資料 No. 2

<意見、質問>

委員) パブリックコメントは、基本計画への意見というより市のごみ施策への意見、実際の実施に対する意見が多いと感じた。

議会の意見は基本計画への修正ということで、視点の置き方が違うと感じた。

この計画は基本的なことを定めていて、細かいことは実施計画で定めると思っていたが、1-2ページで計画の位置付けについて修正したほうがよいのではないかと、という常任委員会の意見は、一般の方から見ればそうではない、視点を変えればそうなるという表れ。

また5-1ページについての提案も、非常によい提案だと感じている。

平成20年度からこの会議が始まり、20年度は3回、21年度に4回、22年度は3月を入れると5回、計11回議論していると、そういうことは当たり前となるが、丁寧に書かなくてはならない。常任委員会の意見は非常によいものがあつたし、それに対する市の修正する方向も非常によかったと感じている。実施計画を作る上で市民の皆さんの意見も参考になるのではないかと感じた。

委員) パブリックコメントで寄せられた意見のうち、4ページの7-①で、高齢化率も高く、活字で書いても読んでもらえないのではないかと。イラストなどでわかりやすく表示することがごみの減量化にもつながるのではないかと。

市広報紙も10日と25日配布されるが、すぐにごみとして処理される実態がある。なかなか活字だけだと読みづらい。要所にイラストをいれて、関心を高めて読んでもらえる工夫を。

事務局) できるだけコンパクトにして、できるだけ各ページにイラストも入れて、読むというより、見てわかりやすい工夫をしていきたい。

(3) ごみ処理基本計画(案)の修正点について

資料 No. 3

(4) その他

資料 No. 3

委員) クローズド式の最終処分場の場合、積雪をどのように考えているか。

事務局) 積雪地であり、その積雪に耐える施設にする必要があると考えている。荷重計算をして積雪に耐える施設とする。

委員) 建築基準法に則った建物になると思われる。埋立後は何かに利用できる建物になる。石川県山中温泉にある施設を見てきたが、当然積雪に耐える施設を造る訳で、本物の建物だ。

委員) 面積が相当広い。

委員) まだどれくらいの施設になるかわからないが、雪については心配ない。
事務局) クローズドシステムは、積雪地で採用されている。東北・北海道、台風シーズンのある九州で最近採用されているシステム。

委員) 東京ドームのようなエアドームを想像されているかと思うが、六日町のオグリ山にクローズドシステムで造った。本格的な体育館のような建物。床は穴だが、当然それで崩れないようになっている。

六日町では、地域の方に鍵を渡していつでも施設内に入れるようにしていた。採水する所の鍵は町内会に預けて、市が細工しないように監視できることで信頼関係を得て、現実にもうまく機能していると思っている。

小出か小千谷でもできたと聞いている。中越地区の積雪多いところにもあるので、遠くへ行かなくても見学できる。実際にどうやって地域の人々の信頼を得ているか聞いてみるのもよいと考えている。

ただ、今そこまで具体的な話をするかは、あの場所で了解してもらえるかということもあるので、実際に建てる時になれば、地域の方々が入った別の委員会で決まるとしている。

前回出された基本計画書では、後ろに参考資料があり、言葉の説明がついていたが、今回はついていないが、付けるということでよいか。

事務局) 参考資料として付ける。

委員) 大野区の役員及び委員会を設けているので、そのみんなで説明を受けている。いい方法かと思っている。ただ、すぐOKと考えていない。

昭和50年に埋立が始まり、実際には30年ぐらい埋立をしている。平成20年に問題が発生してストップしている。先ほど、調査した結果、基準値内の数値しか出ないといわれている。現実にはそうかもしれない。30年間埋立ててきたものをいくら調べても基準値以内におさまっているというのはあまり信用できない。現実にはそういう値しか出ないということだが、今後出る可能性があるということを含めながら不安は持っている。

今後は水処理施設をきちんと造ろう、含まれているであろう重金属の処理もしよう、計画されている。最低基準の問題だからしてもらわなくてはならない。自分もごみを出しておきながら何とも言えない気持ちは、新しい方法で、新しい考えで再度そこでやろうと言われても、ちょっと待ってください、それでいいのか、というのが大野区民全体だろうと思っている。

まだ、区民全員には投げかけていないが、委員だけで検討会を開いたり、もう少し検討する必要があるのではないかと、それから区民に説明をして、どう判断するかというアクションを起こしていかなくてはならない。

①～④の利点があることは分かった。利点だけでいいかどうか。糸魚川のごみを糸魚川で処理しないで上越へ持っていくというのは失礼な話だ。そういうところもあるようだが。糸魚川市で処分するということには異論がない。役所の人も2度とそういうことを繰り返さない方法を提示し、大野の人がO

Kしたのはそういうことだったか、大野はよく許可してくれたな、という何かを欲しいと思っている。それが何かはわかりません。

クローズドシステムにも2通りあり、長野県山形村や栃尾のやり方など2種類あるようだ。税金を使うのはあまり好きでないが、どれが良いのか。どうすれば「あの時の大野の役員はよくやってくれた」と孫子の代まで伝わるか。毎日苦しみながら勉強している。だから近いうちにもう少し勉強会に行ってみたいとか、毎日、市の税金を無駄に使っているのだから、早く結論を出さなくてはと思っているが、皆さんに見に来てもらうような処分場にやってもらうには若干時間がかかると思う。ここに基本計画は出ているようだが、今はまだ大野の地域はOKを出していない。

そういうことを頭に入れながら、中間処理を民間に任せることがいいのか、日立製作所の炭化方式がいいのか、それによっても埋める物の考え方が変わってくる。勉強しながら、いいか悪いかを決めたいと思っているので、ご理解をお願いしたい。

《全般にわたって》

委員) 最終処分場の適正化と構想を聞き、妥当な計画だと感じた。既存の部分については、浸水対策として側溝などで集水するもの。シートは貼らないのか。
事務局) シートは貼らない。

委員) 雨水を盛り土ではじき、側溝へ集めて調整池へ持ってくるというやり方か。
事務局) 盛り土は治山堰堤を抑える盛り土。集水井工で集めたものを側溝から集水ピットへ集め、調整槽へ持っていく。

委員) 雨が浸み込まないようにきちっと集水する、基本的には地滑り防止にもなるということ。今の処分場の計画は非常に広いので、屋根つきということは、雨を除く、それから水処理、地下水を処分場に入れないということで屋根をつける、パートごとに計画的に埋めるたびに屋根をつけて、埋め終わったら違うところに屋根をつけて、そういう考え方でよいか。
事務局) 具体的にどのようにするのかということは、これから基本設計を組む中で、検討していくことになる。現状では屋根をつけた処分場にしたいという考え。

委員) 雨水を処分場に入れないということが非常に大きい。経費的にどうかかわからないが、処分場の水処理、雨水というのが大きい問題なので、屋根をつけると水処理の経費も浮く。これからの新しい処分場であることには間違いはない。あとは細かい施設計画をどうするか、それに対して監視役としての水処理施設は今までのものを使うか。
事務局) 重金属処理対策のために浸出水処理施設を新たに設けたい。

委員) 2年間市外へごみを運び出しているが、一年間でいくらぐらい処理費を使っているか。

事務局) 埋立ごみの処理費は、中間処理、中間処理までの運搬、埋立処理、埋立処理(出雲崎)までの運搬、全部含めてH22年度見込みで4,863万円、約5,000万円。

委員) 新しく造る最終処分場はシュレッダーしたものを埋め立てるということか。

事務局) 今までは何も処理しないで埋め立てていたが、中間処理(破碎)して埋め立てる。入れるものについてもこれから精査していきたい。

委員) この前の説明では分別、シュレッダーするのは民間に委託するということか。

事務局) 今現在民間に委託している。民間でできるものは民間でという考えもある。今の段階ではそのようにしていきたいと思っている。将来にわたってずっとそれで決まりというわけではない。

委員) シュレッダーするのは市外か市内か。

事務局) 今現在は糸魚川市外で中間処理しているが、今市内でも試験的にやっている。あくまでも試験的なので、うまく稼動していければ市内でやっていきたいと思っている。

委員) 市外でやれば運搬費がかかるので、市内でやればベターだろう。

事務局) 今までは市内処理ができなかったわけだが、市内業者が処理の許可も取り、あくまでも試験的ではあるが、市内で少し中間処理している。

委員) 5,000万円という説明があったが今まで埋め立てていた経費にプラスということではなしに、持っていった全てが5,000万円ということか。

事務局) そうだ。

委員) 市内で処理していたとしてもいづらか掛かるわけだから、全部が今までのマイナスということではないということか。当然大野へ運搬しても経費は掛かったはず。それ以外の経費ということではなく、全てで5,000万円ということか。

事務局) 大野はほとんど運搬費だけだったが、今はその運搬費に加えて処理費が掛かっているということ。

委員) 新たに何十億も掛けて処理施設を建設するよりも。その方が安いという計算はできるのか。

事務局) 施設そのものによって、例えば15年間で何十億とした場合に、割って年間いくらという額を出すと、市外へ持って行った方が安いという計算も成り立つことは成り立つ。ただ、自分のところがないと、何が起きるか分からないということもあるし、民間だとどうなるかわからない怖さがあり、リスクも

負う。安いだけが良いということでもない。地域内処理が原則と考えている。

委員) 上越市でも処分場を建設しようとして反対がある。非常に時間と労力がいる。安く処理してくれるところがあるなら、その方が市の財政が楽なら、任せの方がいいということにはならないのか。

事務局) 当然自分で処理している分では、責任をもってやるが、人のところへやるとなると、例えばそこが変な処理をしたとすると、持って行った分だけ負担をしなくてはならない。そういうリスクを負うことにもなる。ただ安ければよいかというと、廃棄物処理はそうではないと考えている。

委員) 中間処理も行政でルートに乗ってやってはどうかと話したら、民間の方がしっかりした良い仕事をやってくれるとのこと。

また、ごみ行政がものすごい速さで進んでいる。今年のやり方は、来年になると違う安いやり方が出ている可能性がある。補助金も長期ではなく、短期サイクルの補助金だと聞いている。ごみはどうすればよいか、各自治体が苦勞している。その中で高額の投資をしてよいかという問題もある。

事務局) 民間の場合は、一般廃棄物だけではなく産業廃棄物も扱うため、処理量が多く、施設に投資できるため、一般の企業では、技術が日進月歩している中、新しい技術を投入できるというメリットはある。

それを地方自治体の一般廃棄物だけを処理するとなると、どうしても量が少ないので、効率的には悪くなるということで、中々次の投資ができないのが現実と思っている。

事務局) 中間処理についてはなるべく最先端を利用していくのが、一つ良いことだと思う。最終処分場については、いわゆる経済効果を考えて他へ持っていくというのではなく、自分の市の中で確保しておかなくてはならないと考えている。最終処分場と中間処理と分けて考えると、全てが市、全てが委託ということではなく、委託できるものは委託して、市で持つべきものは市で、という考え方だ。

委員) 3-1-1 ページに最終処分費が書いてあるが、20年度が2,100万円、21年度が1億900万円くらい。そうすると8,700万円ほど最終処分費が掛かったと見るが、説明と食い違いがあるようだがどうか。

事務局) 21年度については、一般廃棄物最終処分場適正化事業の金額が約1億300万円計上されている。通常の大野埋立地の管理は約600万円となっていて、合わせて1億900万円となっている。

1億300万円の中に、21年度には埋立ごみの処分費約4,000万円含まれている。21年度は約970トンの埋立ごみで、約17%減量した。

事務局) 1億円の中には最終処分場の適正化工事も入っている。先ほどの5,000万円は埋立処分費だけということ。

委員) 今炭化炉から重金属類は出ていないか。

事務局) 出ていない。

議長) 今回審議の内容を踏まえて、計画案の修正を行い、次回の審議会で修正後の計画案を審議の上、市長に答申したいが如何か。

委員) 異議なし

(5) その他

【事務局なし。】

委員) 埋立地の問題は水銀問題から発生しているが、この文の中にいかにして水銀を少なくするという対策がほとんどない気がする。

ボタン電池を幼稚園の子どもがゲームなどで使って、ごみ箱へポイと捨てると言うケースもある。幼稚園から中学生前までの教育の中に、そういう教育も必要と思うがどうか。

乾電池の回収が、22年度は今までより2.1トン余計になったが、その辺りをお聞かせ願いたい。

事務局) ボタン電池は、例えばおもちゃなど埋立ごみの中に入っている可能性があり、今は破碎処理施設で破碎して金属類だけ取り出せるシステムとなったため、埋立ごみについては問題がなくなりつつある。

焼却施設では、燃やした後に、キレート剤という薬を使って水銀を取っている。水銀がきちっと取れるように監視している。ばい塵を搬出するときには、水銀がないことを確認してから、最終処分場へ持って行くこととしている。水銀を出さないようなシステムに変えているので、そこは良いかと思う。

環境教育についてこども課と連携しながらさらに力をいれてやっていきたい。幼稚園、保育園も含めて上越環境科学センターからも来ていただいているが、ご協力いただきながら、どういうごみの分別をしているか、ということも皆さんにお話させていただいているので、そういう中でやっていきたい。

事務局) 乾電池の処理量、去年は21トンで、今年度1月までの実績は17トン。2、3月分を見込むと大体去年並みの21トンに落ち着くのでないか。

事務局) ボタン電池は今水銀を使用していないと聞いている。

委員) 店に出ている半分は水銀が入っている。

委員) 次回でまとめて市長に答申して終わりか。委員の任期も終わるか。

事務局) 任期がもう1年残っている。ごみの有料化等についてもご審議いただきたい。

委員) 乾電池のようなものの処理では、水銀を事前に見つけて処理する体制になっているか。それとも以前と変わらず、キレート剤で処理するという状態か。

事務局) 基本的には、炭化施設のピットへ入ったものを取り除くということは不可能なので、処理方法は以前と変わっていない。キレート剤を使い、水銀が出ないようにしているし、毎回ばい塵を搬出するときには、重金属を測って問題がないということを確認してから出雲崎へ運んでいる。

委員) そうすると市民に、おもちゃなどの乾電池類を燃えるごみに混入しないように、啓蒙しなくてはならないのではないかと。

事務局) それが一番大事だ。

委員) 今日、埋立ごみの収集だったが、そういうものは持って行かない。埋立ごみはものすごく時間がかかる。全部中を調べるので、電池の入っているものは置いていく。たまに目こぼしもあると思うが、収集業者は大変だと思う。

委員) 生ごみを自宅で処理するコンポストは、畑があれば畑で処理できる。畑がない人たちが、コンポストを使って生の腐敗したごみを、どこへどのように出せばいいのか、ということまで説明してあげないと、ただコンポストを買ってごみを入れろでは、後の結果が良く出ないのではないかと。

事務局) 一番の課題と思う。私も畑がないためコンポストは正直使えない。ボカシでやっているが、狭く密集している所だと、どうしても夏になるとすっぱい臭いがする。長い間臭うわけではないが、処理したときに臭う。利用は、定期的に制限される。電動のごみ処理機も考えているが、Co2の問題もある。農業の専門家に、コンポストで肥料化したものを処理できるか聞いたところ、制度的にきちんとやるということが出てこない、個人の力でお願いするということでは中々難しいと感じた。これからの課題だと思う。

委員) 電動タイプは電気代がかかる。

事務局) コンポスト、ボカシが一番良いと思うが、今言われた問題は残る。制度としてどう作り上げていくかは検討を要する。

パブリックコメントなどでも、生ごみのことは非常に良く出てくる。審議会でもあったが、市のシステムとして組み込んでいく方法は出てきている。日本全国で問題視されているので、システムの中で提案されていくと思う。今の段階では、糸魚川市くらいの規模では、施設を造るということはどうか。この基本計画の中にもあるが、全体のシステム化の中で検討していかなくてはならないと考えている。

委員) 行政が違っていると難しいかもしれないが、上越市の例は、生ごみを汚泥リサイクルパークで発酵、メタンガスを発生させて、電化、発電するプラントが設置されている。

市町村によっては生ごみと一般ごみを分けて収集している。生ごみがだんだん足りなくなっている。農家は畑で使う、町内の人だけ。週3日生ごみと一般ごみを分けて収集している。そういうルートもある。民間で生ごみを収集するところもある。

(6) 次回の日程

次回は市長へ答申する。3月24日（木）に開催。時間は15時から。審議会終了後に(株)大月さんの施設と浄化センターの視察を考えている。その後懇親会を計画。詳細は後日案内。

(7) 閉会

小笠原副会長あいさつ